

①

第2回児童精神科領域研究会

(H23.12.15)

思春期の心の発達について

杏和会 阪南病院

作田 泰章

② 当院での児童精神科外来の歴史

当院では2005年8月以来児童精神科外来を開設し、これまで約6年間外来診療を行い、担当医も開設当初の1名から現在の8名まで増加した。

③

当院での児童精神科外来の体制

完全予約制（医療福祉相談室を通して）

児童精神科医：現在8人（成人も兼務）

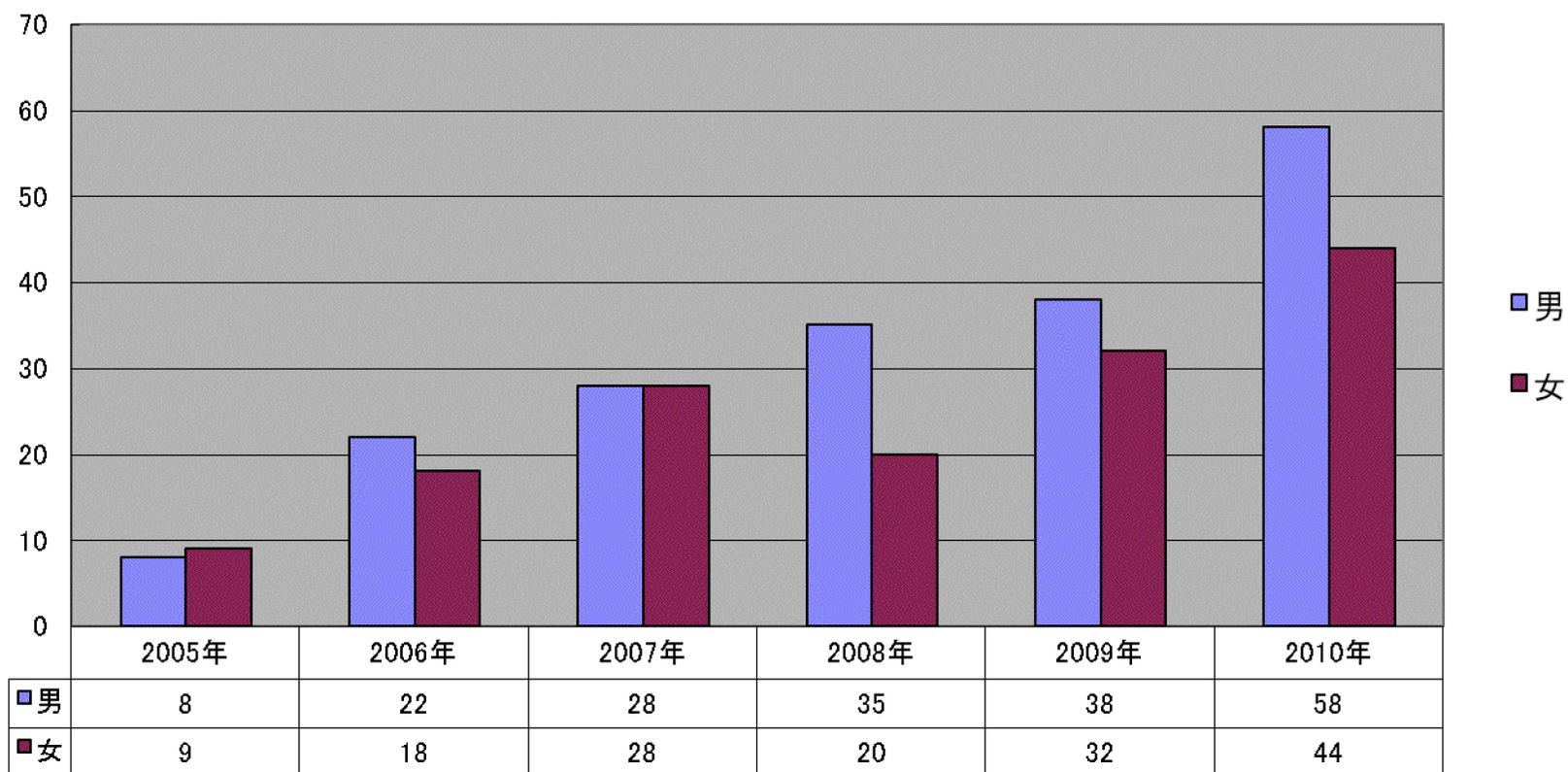
診察日：月曜日から土曜日の午後

初診枠：1日2人（週に最大12人）

（2011年12月現在）

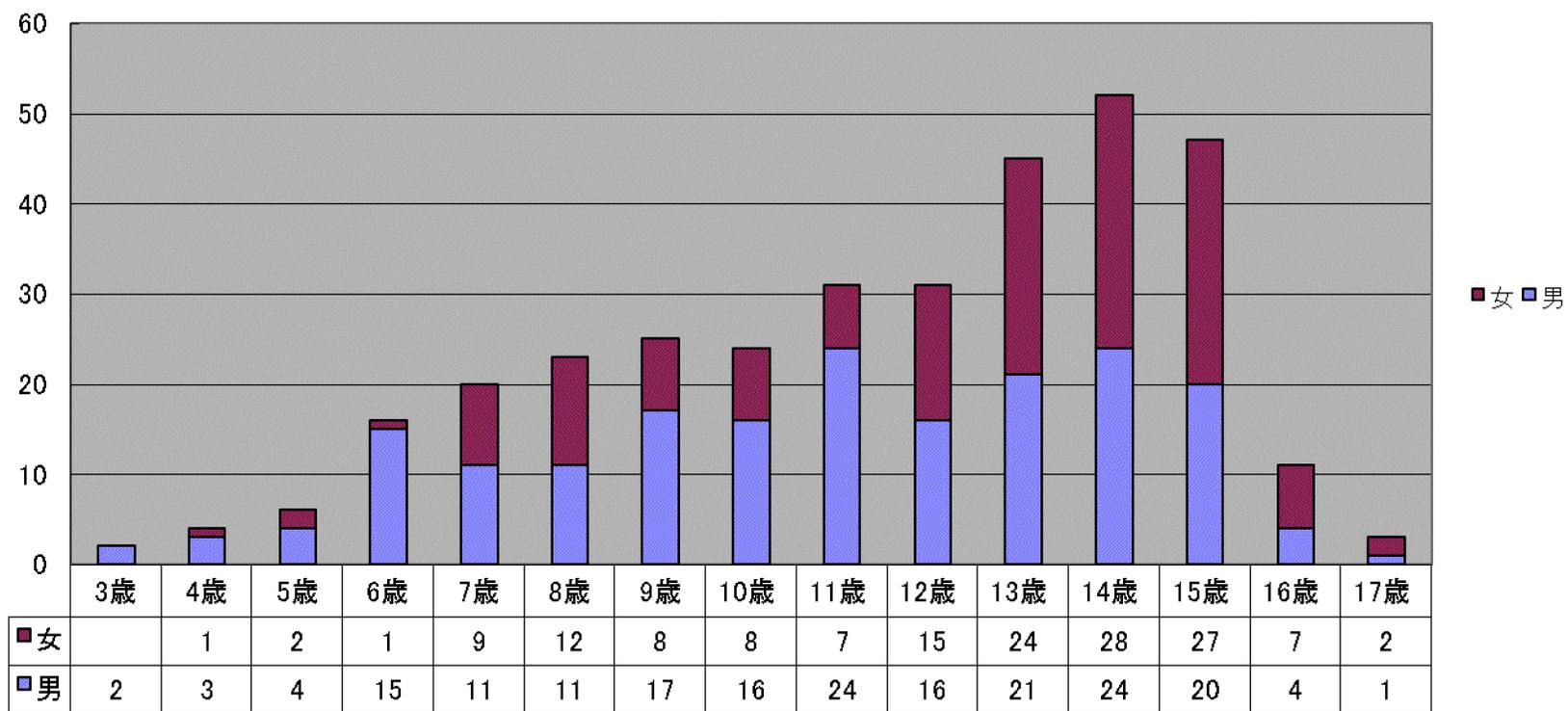
④

初診患者数の推移



⑤

初診時新患統計年齡分布



⑥

受診動機

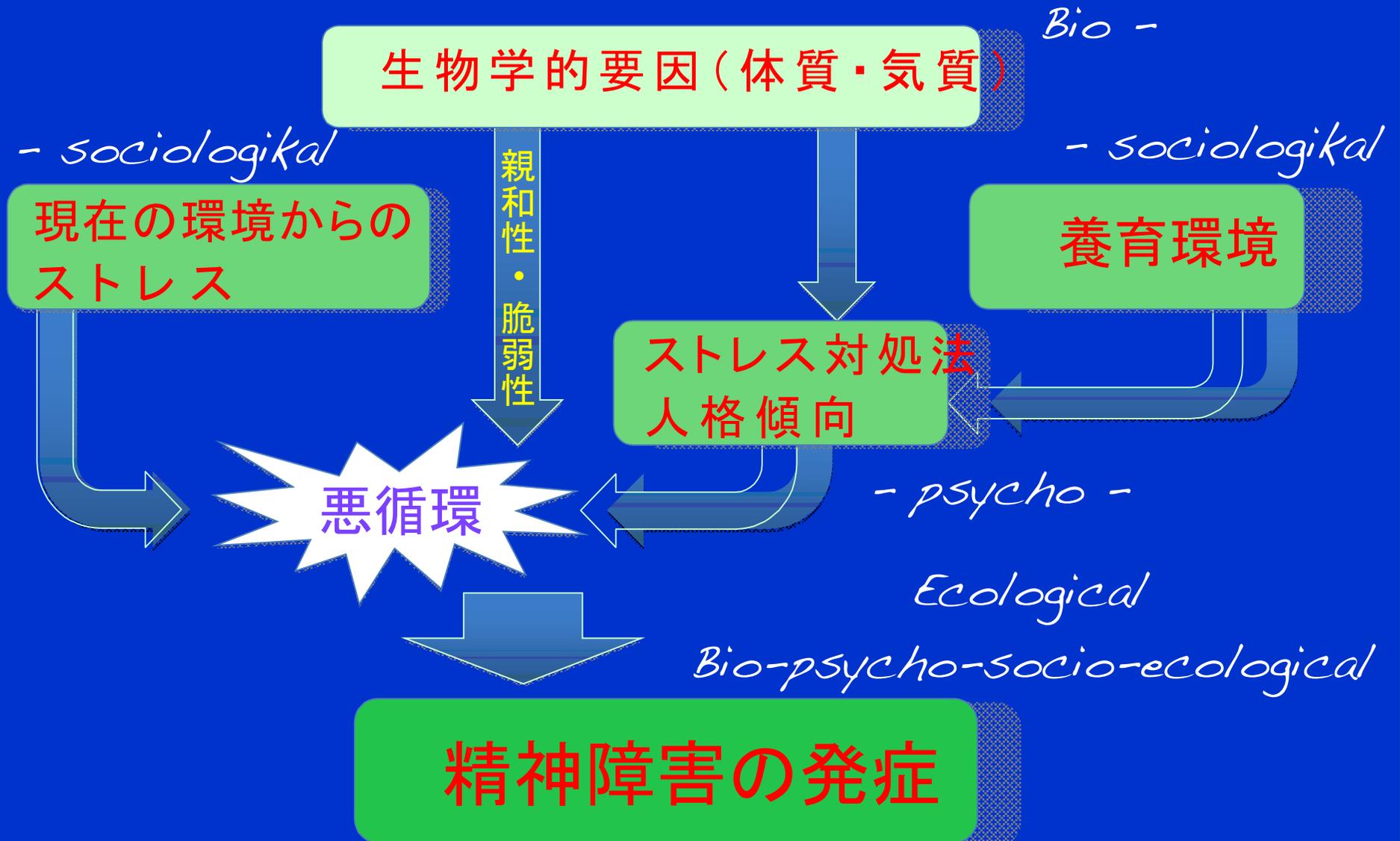
1. 幼児期から学童期の年代で、発達上の問題を主訴としてくる
⇒発達障害の診断を受け、後に問題行動、精神症状が出現し、併存障害として診断される
2. 幼児期から思春期まで広範な年代で、発達障害の症状ではなく、不登校などを主訴としてくる
⇒発達障害以外の精神疾患（適応障害など）の診断がつくが、徐々に発達障害であることがわかる子もいる

⑦

児童・思春期の精神障害とは何か

⑧

【精神疾患の発症仮説】



⑨

発達障害の顕在化とは何か？

発達障害の「脳の脆弱性」や「気質」

生物学的要因（体質・気質）

社会環境

現在の環境からの
ストレス

影響及ぼす

養育環境

親和性・脆弱性

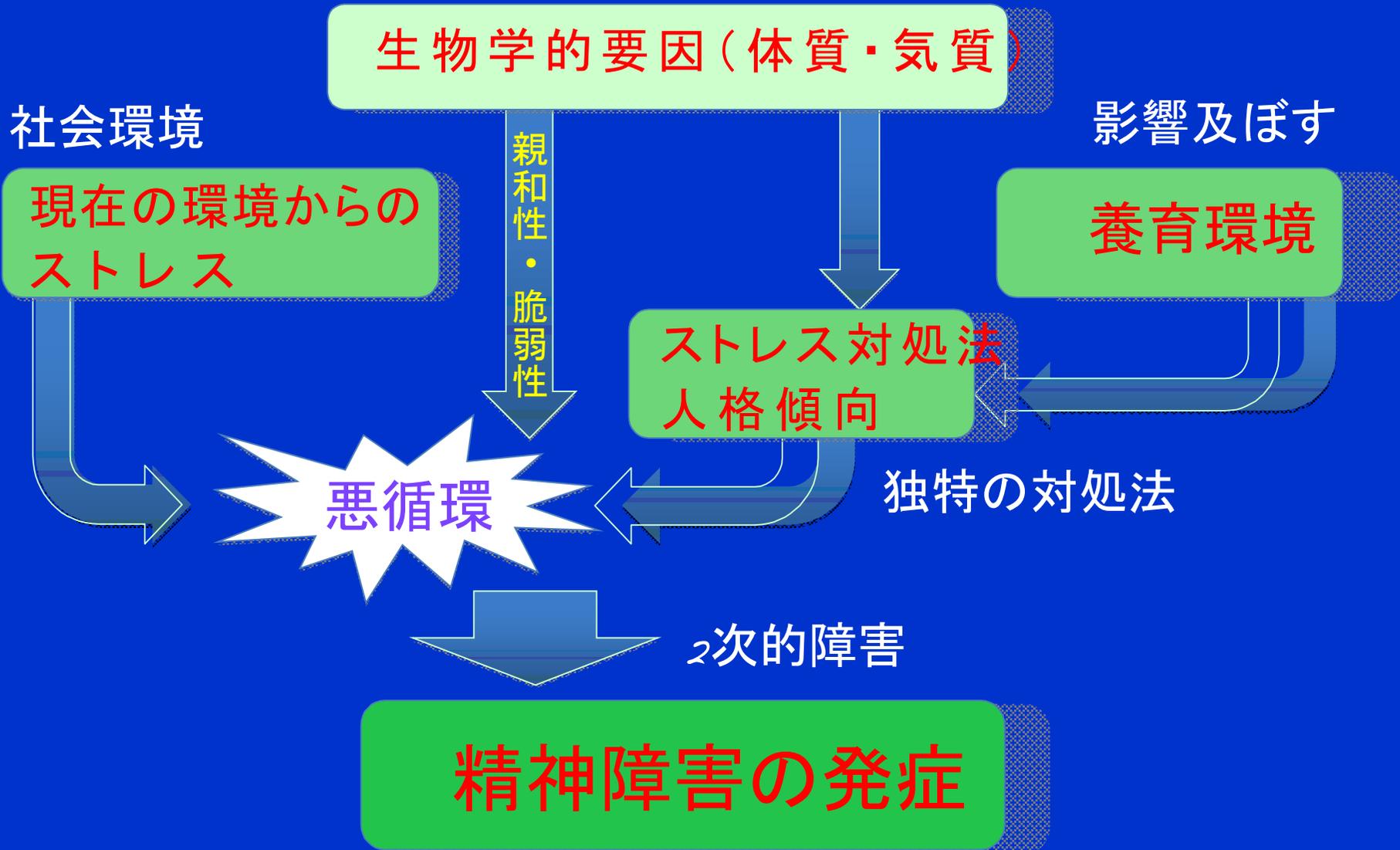
ストレス対処法
人格傾向

悪循環

独特の対処法

二次的障害

精神障害の発症



⑩

身体機能の発達障害とは何か？

チック、遺尿症など器質的要因

生物学的要因（体質・気質）

現在の環境からの
ストレス

親和性・脆弱性

養育環境

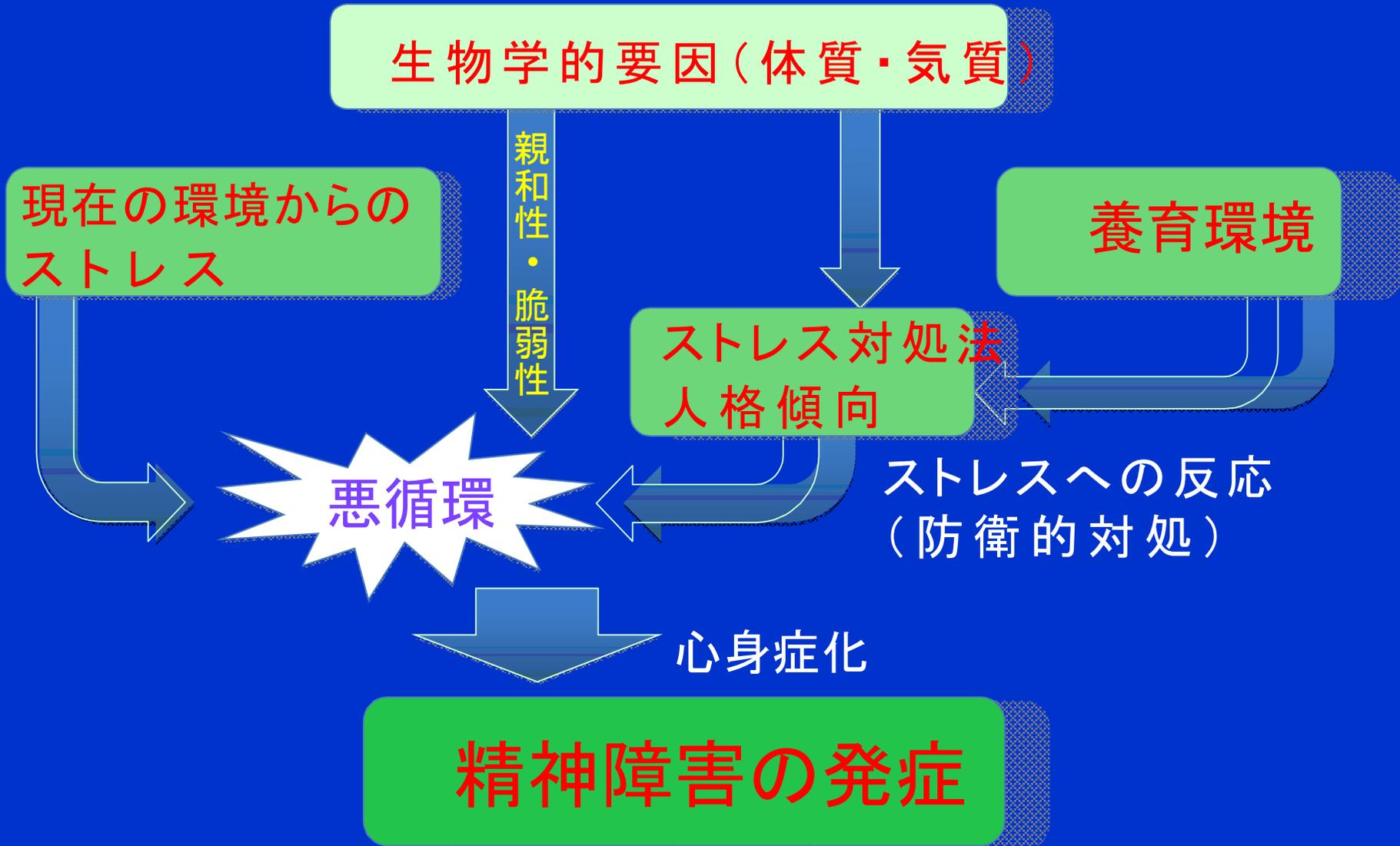
ストレス対処法
人格傾向

悪循環

ストレスへの反応
（防衛的対処）

心身症化

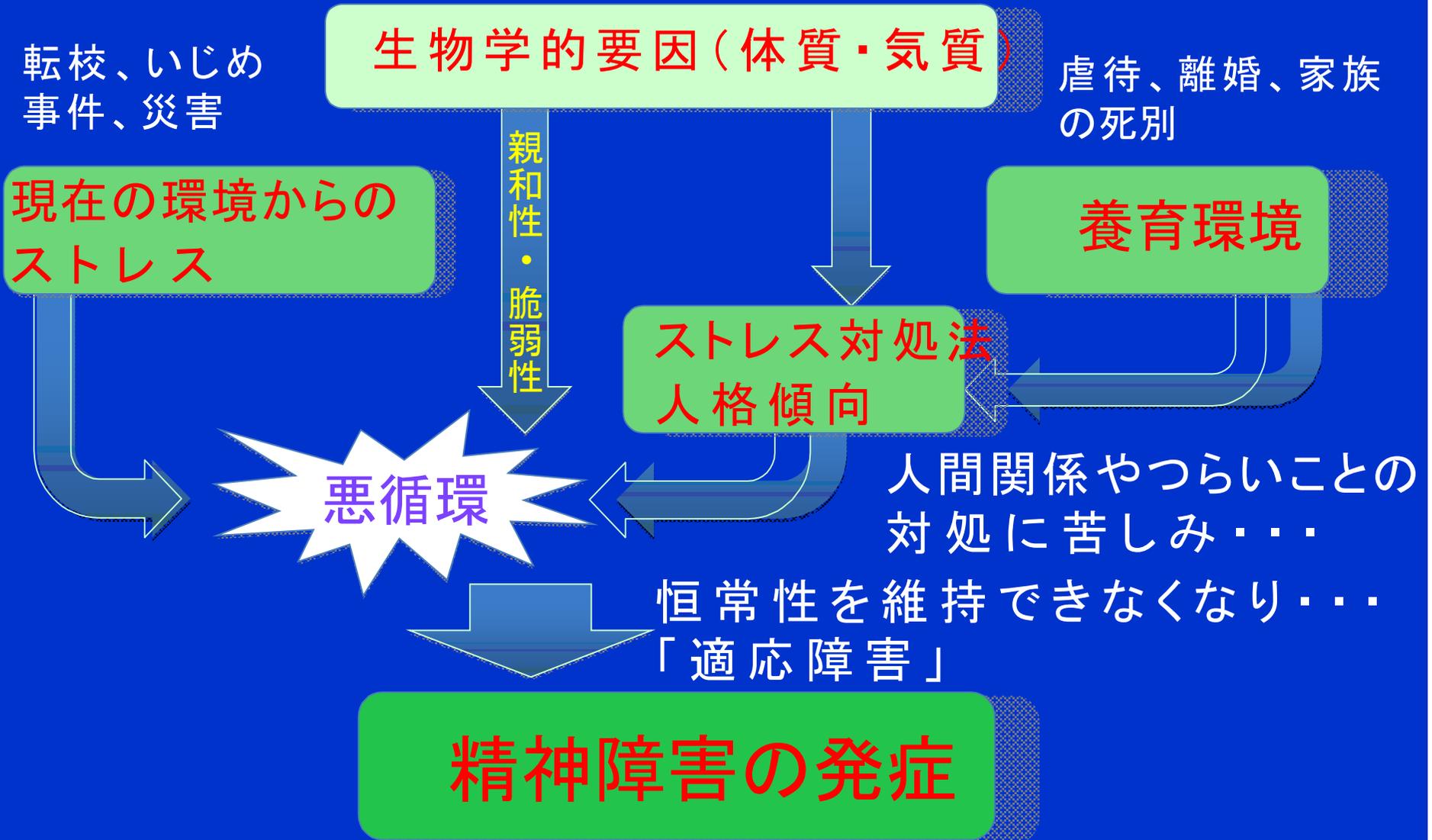
精神障害の発症



⑪

神経症性疾患の発症仮説

生来の不安への過敏性やこだわりの高さ



⑫ 児童思春期の精神障害の特異性

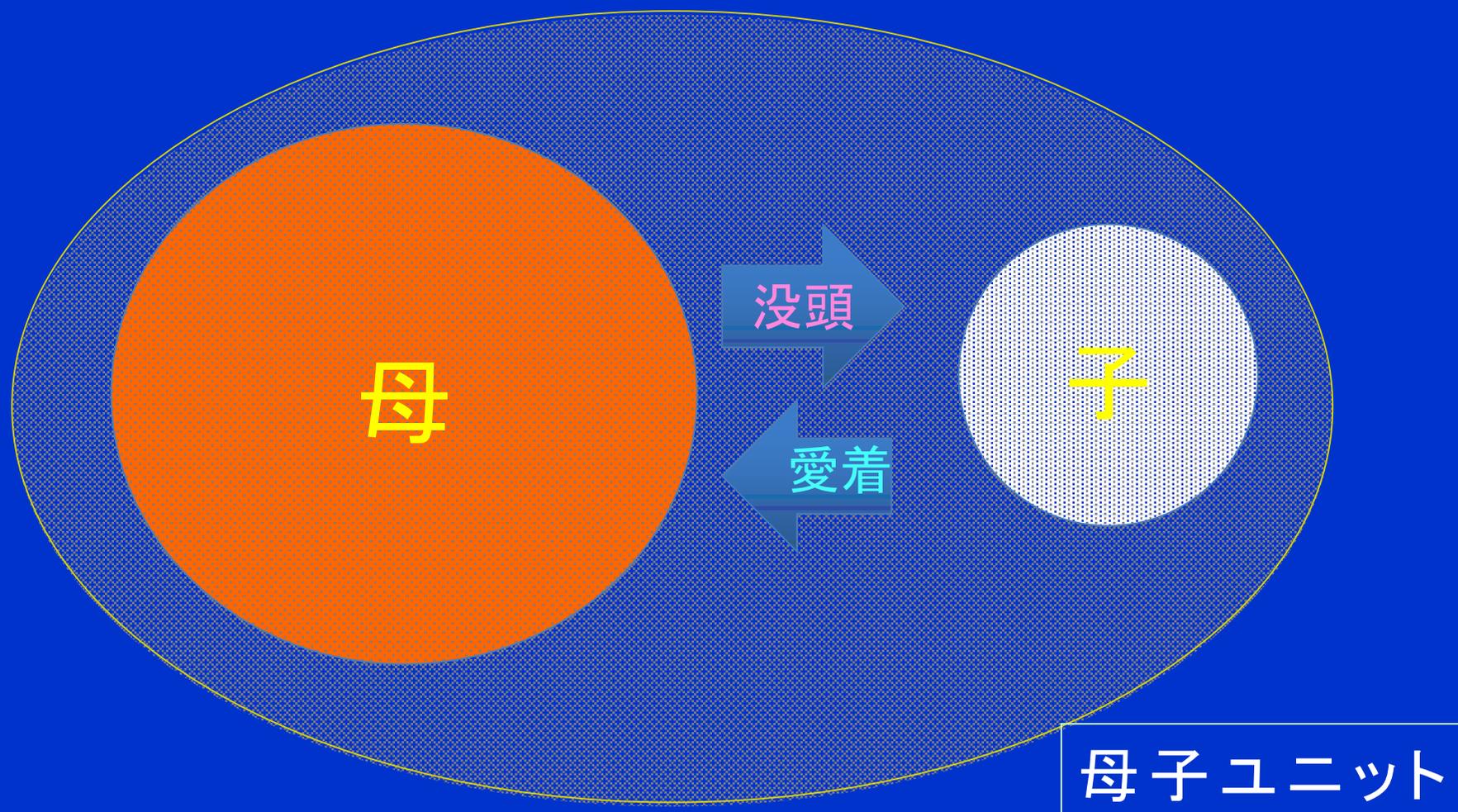
- 子どもの心は発達しつづけており、流動的である。
- よって、子どもの心の障害の症状も流動的であり、疾患の多くは未分化で過渡的なものとなる。
- こうした障害理解のためには児童思春期の心理的発達過程に関する視点が必須である。
- 様々な疾患の発現要因や修飾要因として「発達障害」を評価する視点が必須である。
- 子どもは環境への依存度が高く、環境の影響による2次的障害を生じやすい。

⑬

乳児期～思春期の心の発達

⑭

愛着と没頭（乳児期）



⑮

母子の愛着は何を生み出すのか

自己肯定感；存在が祝福されている。

他者への信頼感；守ってくれる・喜んでくれる



基本的信頼感を生み出す！

「幼児期早期の子どもにとって何より大切なことは、特定の養育者とのあいだに安定した愛着関係を育むこと！」

①6



潜伏期の間に、両親への依存から、社会的に認めてもらえるといった自尊心の感覚へと次第にシフトしていく。

学習、思考といった重要な自我活動が自我をしっかりと強化されていく。

①7

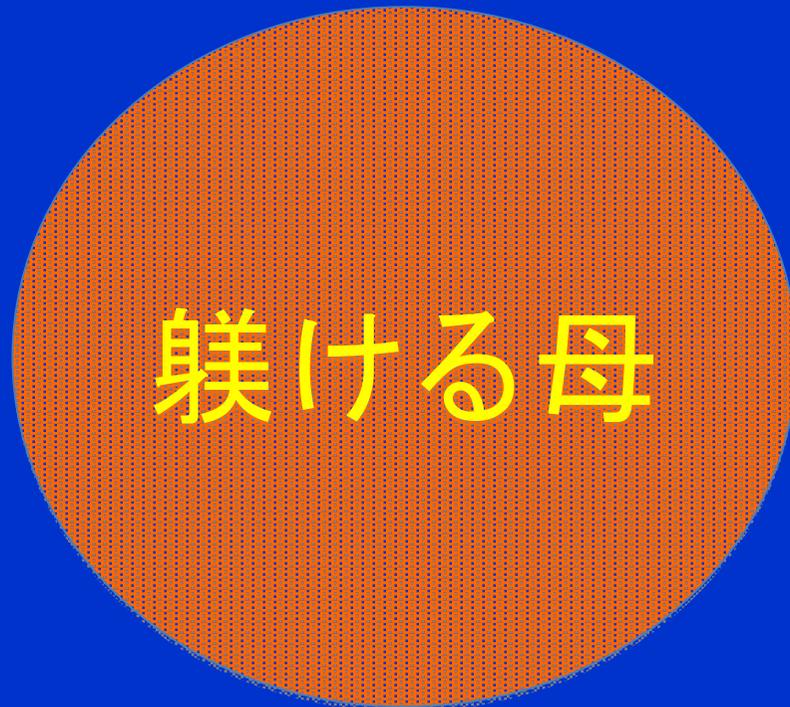
思春期の段階について

1. 前思春期；小学校高学年（10歳～12歳）
2. 思春期前期；中学生（13歳～15歳）
3. 思春期；高校生（16歳～18歳）
以降青年期
4. 思春期後期；19歳～22歳
5. 思春期後；23歳～

(P.Blos)

①⑧

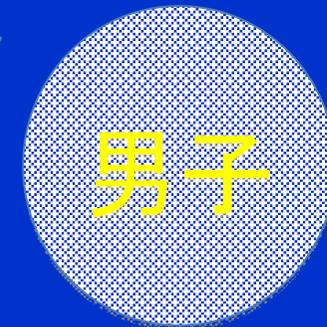
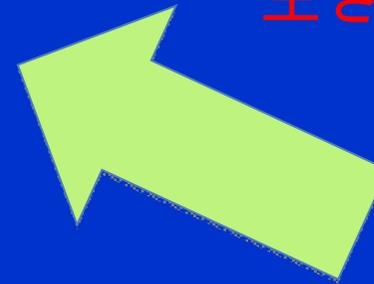
思春期前半男子の退行的心性； 2, 3歳児「しつけ」段階の母子の関 係性



躰ける母

腹が立つ・・・
ママなんていなく
なっちゃえ

でもママが大好き
ママなしには
生きられない



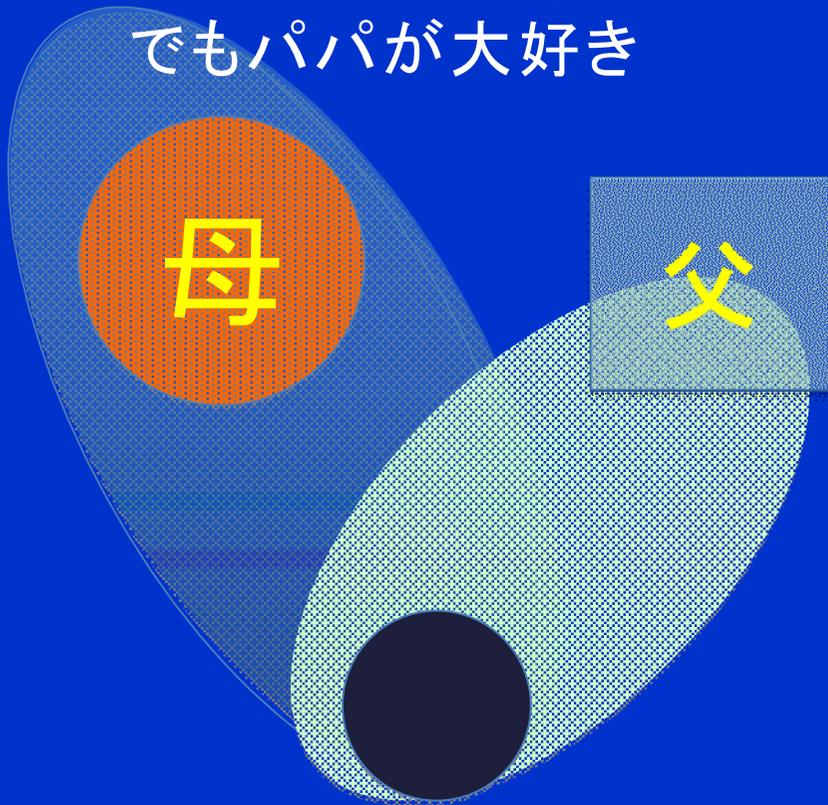
男子

ママに腹を立ててもママは壊れない
僕はすぐにまたママが好きになる
だから今は「プン！プン！」

①9

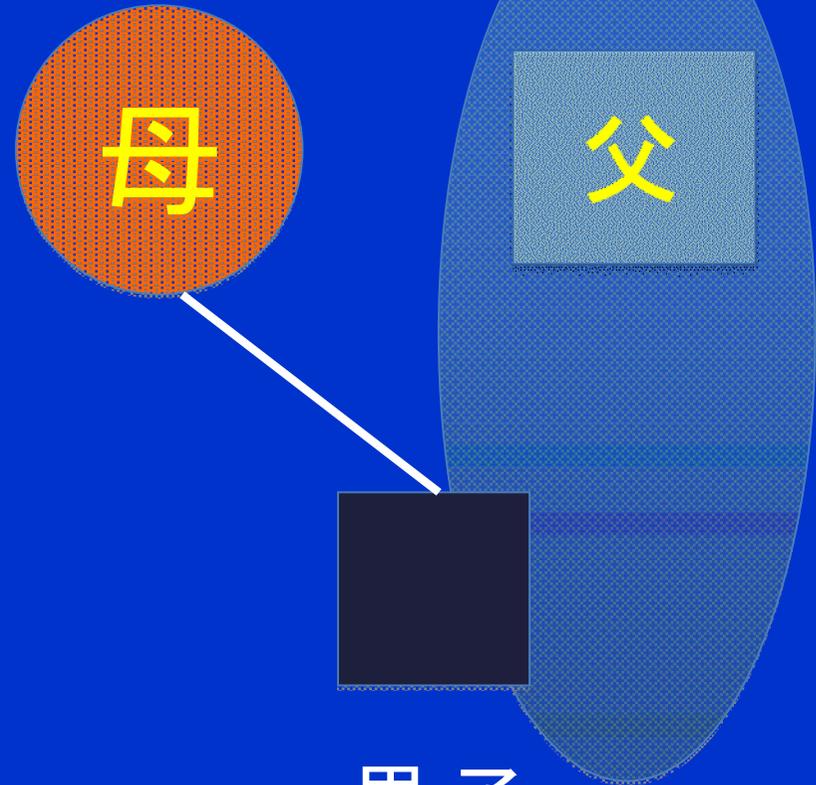
思春期前半の男女の退行的心性； 4, 5歳児の葛藤への対処

ママみたいになりたい
でもパパが大好き



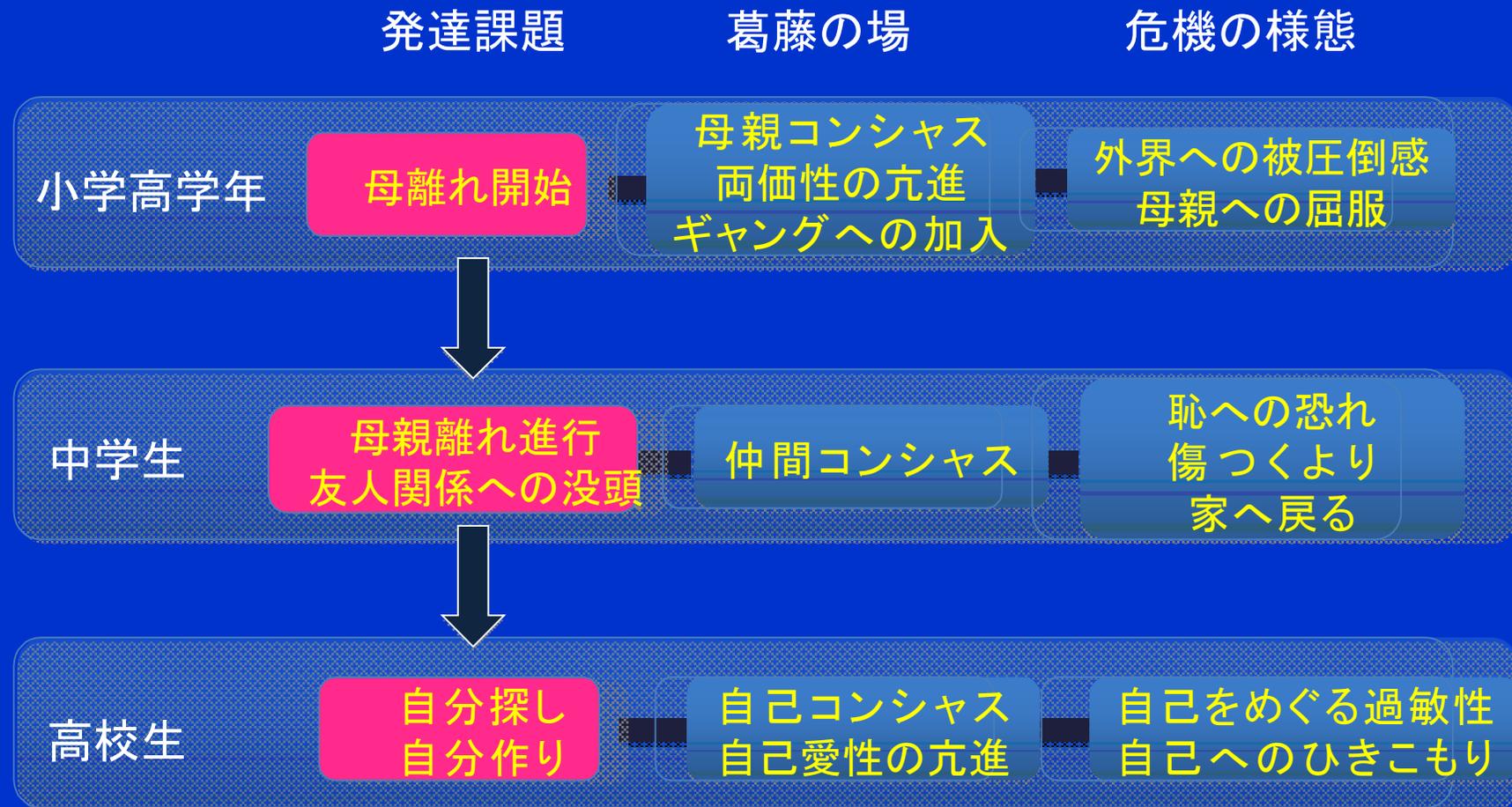
女子

ママ見てて、僕は大好きな
パパみたいになりたいんだ

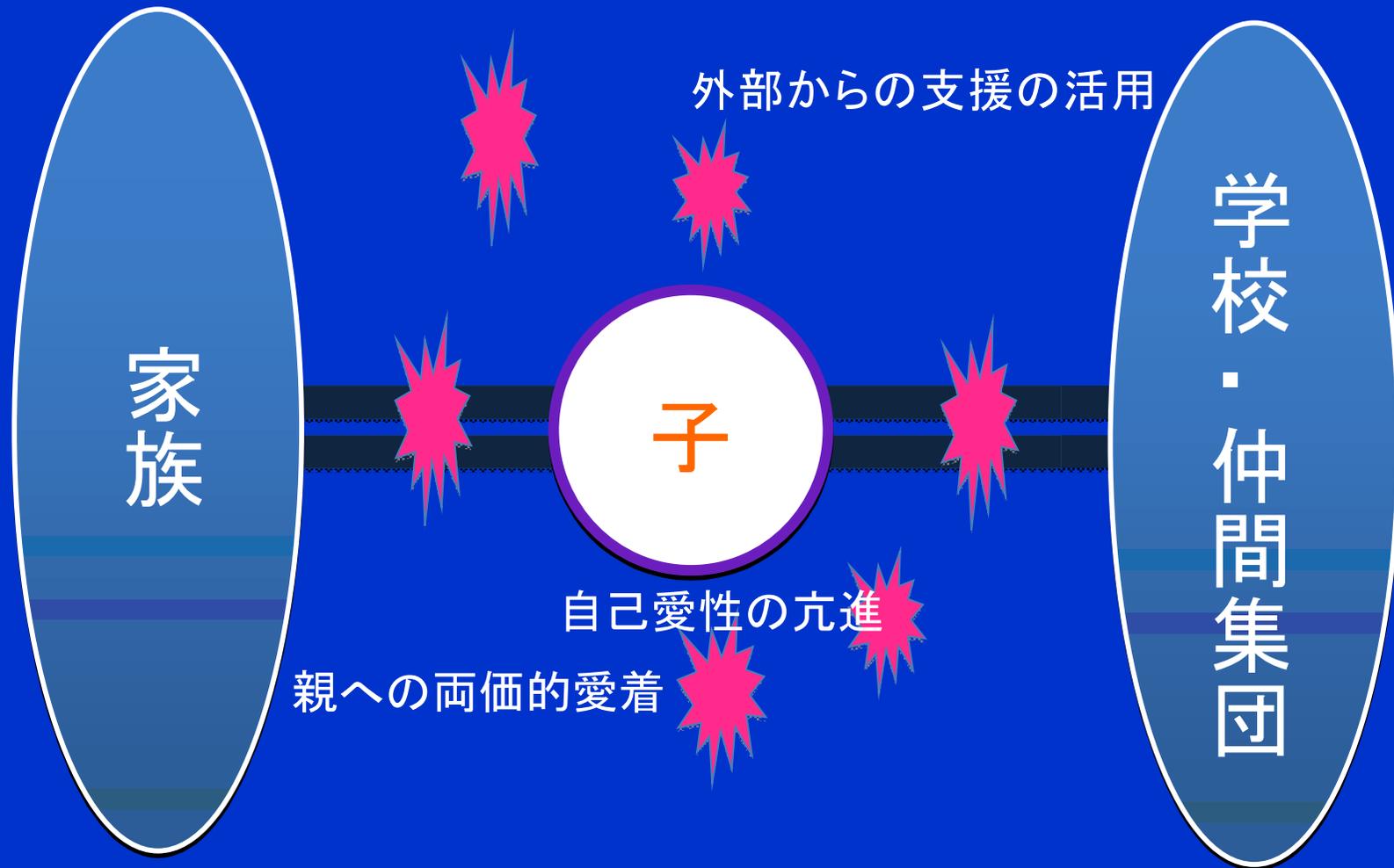


男子

思春期の発達課題と危機



思春期の子どもへの葛藤対処法



思春期前半の男子の関係性の布置

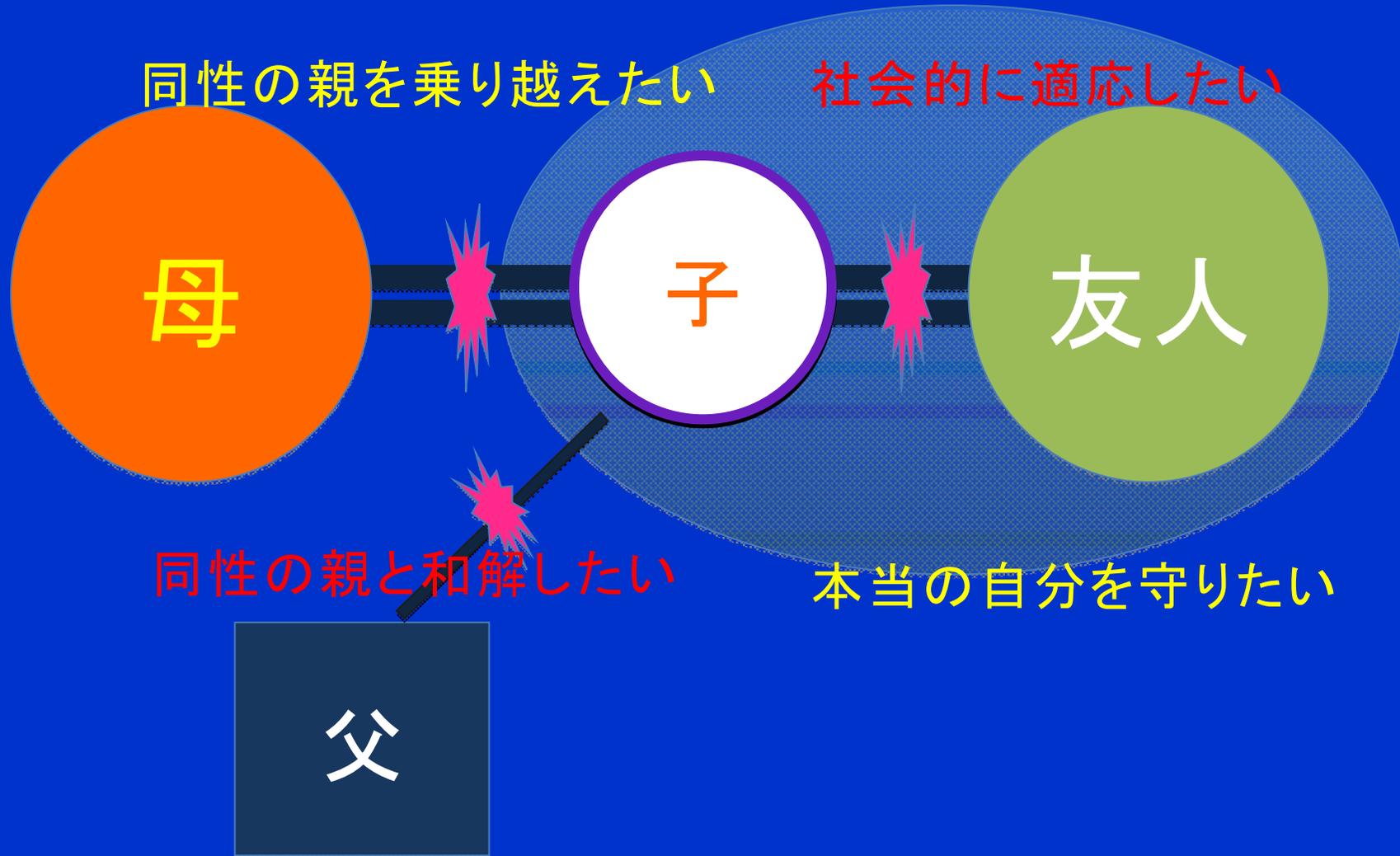


23

思春期における女子の関係性の布置



思春期後半の関係性の布置



思春期の危機とはなにか

- 親離れによって生じる親子関係の危機
- 親離れの推進力となる仲間関係の危機
- identityの確立の過程に伴う危機
- 第二次性徴に伴う身体的危機

親離れによって生じる親子関係の危機

- 幼児期に過剰適応的な「良い子」のままでは、これ以上親離れしてはいけない、本当の自分がないといった自己像に伴う苦悩
- 親離れを続けることで親の精神的危機が切迫するという恐れ
- 思春期葛藤を受容されない環境の中での苦悩
- 子どもの挫折を受容できない自己愛性の高い親からの親離れが強いる高いハードル

親離れの推進力となる仲間関係の危機

- 仲間関係での自意識過剰での恥への恐れ
- 仲間関係での孤立による恐れや怒りの増大
- 仲間集団への被圧倒感の亢進
- 仲間集団の反社会性への誘い
- 仲間集団での挫折の恐れとひきこもり

identityの確立の過程に伴う危機

- 自己愛的な防衛的対処
- 自傷行為
- 自己の過敏性亢進
- 自我境界の曖昧化/自己同一性の拡散
- 虐待的幼児期が思春期に激しい無力感や怒りといった自己否定感

第二次性徴に伴う身体的危機

- 攻撃性の亢進
- 運動能力・攻撃力の亢進
- 性衝動の亢進
- 身体サイズの増大
- 生殖機能の発達
- 認知機能の発達
- アスペルガー症候群児の心の理論の獲得

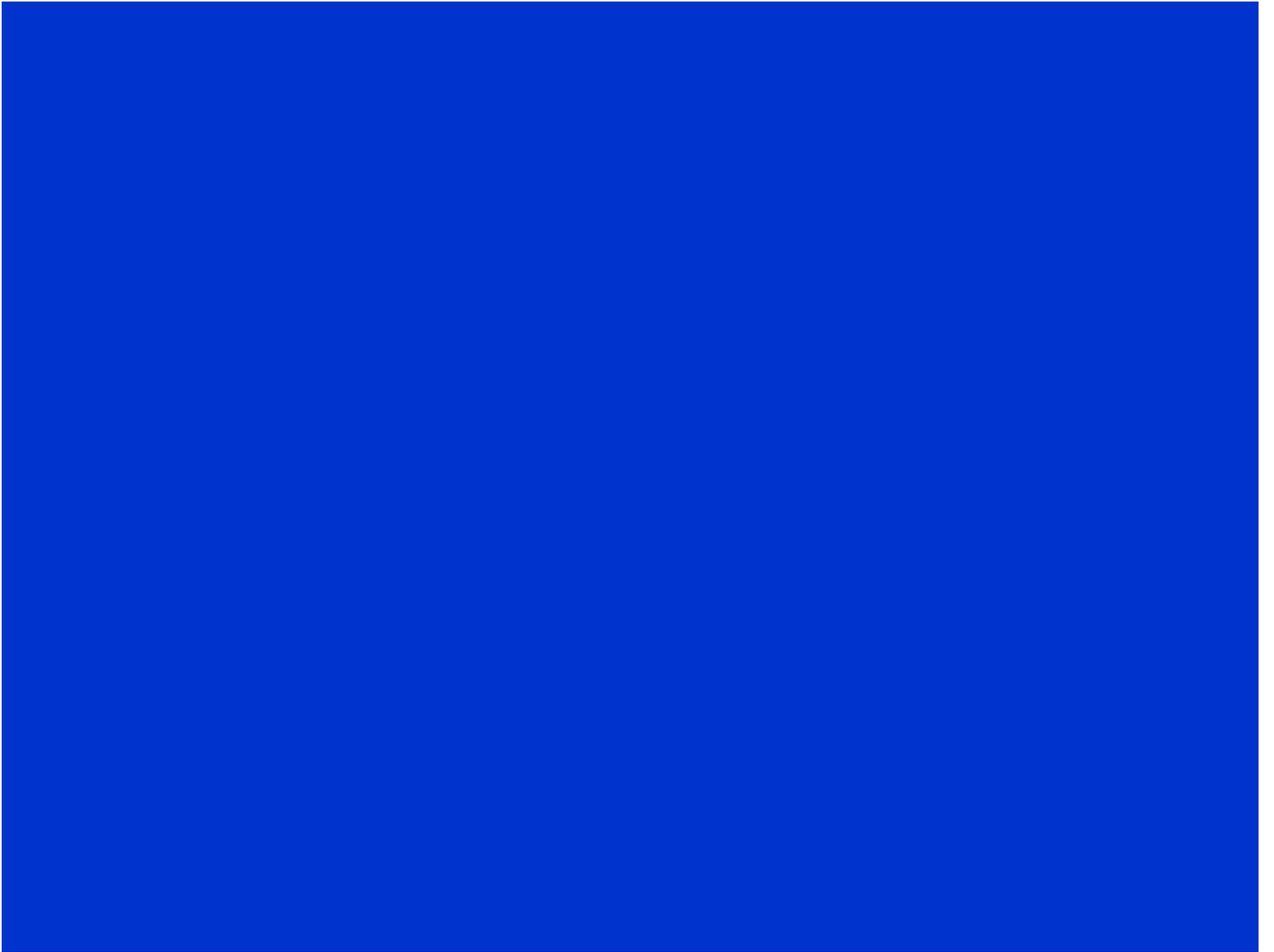
思春期の到達点①

- 幼児期の葛藤に由来する両親への愛着、罪悪感、怒り、憎しみといった感情が過剰ではなく、内的な両親像から自由に自己決定できる。
- 同性の親が示してきた態度や姿勢に対して感情的に折り合える。同性の親への反感、ライバル意識、過度の理想化、恐れを克服している。
- 自分への衝動を統制できなかつたり、衝動を統制できないのではないかと過度に恐れたりすることがない。

思春期の到達点②

- 孤独に耐えられると同時に、他者と親密な関係を結び、維持できる。
- 異性への関心が適切にあり、異性に関する正しい理解を持っている。
- 社会的役割や性的役割を受け入れることの葛藤を克服している。
- 社会的活動の場と役割を得ることができ、経済的自立の見通しを持てる。

御静聴ありがとうございました



以降は付録です。

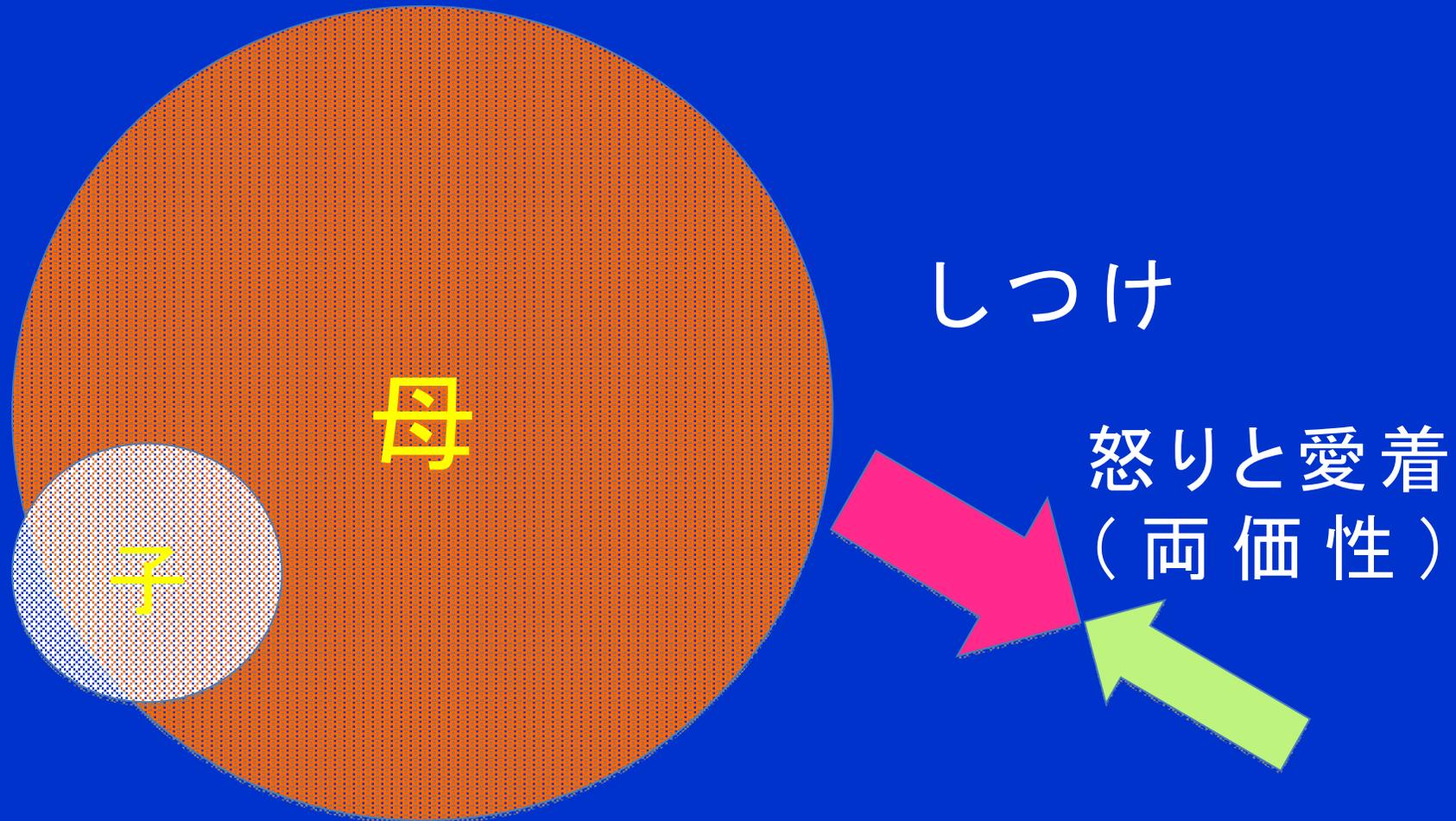
遭難モデル

- 不安
- 過労（精神的ストレス・身体的ストレス）
- 不眠
- 孤立

養育関係の機能的側面

子ども	親
Attachment(安全-探索)	Bonding(情緒的応答性)
警戒	保護
生理的調節	まとまった構造の準備、 ニーズへの応答
情緒の調節と共有	共感的応答
学習	教授
遊び	遊び
自己コントロール	訓練

「しつけ」段階の母子の関係性 (1)



幼児期の父親の出番は？

0歳後半から加速する母親離れに、父親の代理母的な関わりは、子どもの自己肯定感と個性の感覚形成に貢献し、さらにはバランスのよい思春期の到来に貢献する。

自閉症成人の語ることばから

私に自己意識が発現してからは、他人との違いや違和感が強く意識され、自分が他人より劣っている部分も見えてきました。その結果、自分自身のおかしな行動をカモフラージュすることができるようになりました。

同時に、ひどい自己イメージの混乱に悩まされました。

「普通の人」の猿真似をしながらずっと生きていかなければならないのか。

自己嫌悪、無気力、抑うつ、希望の喪失、障害受容が重要な課題として浮上してきたのです。(⇒ここが軽度発達障害の精神病理の深さ)

「BPD病態モデル」を用いての治療の説明

